

2017年5月7日川越教会

死からの救い

加藤 享

〔聖書〕ローマの信徒への手紙5章 12～21 節

このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです。律法が与えられる前にも罪は世にあったが、律法がなければ、罪は罪と認められないわけです。しかし、アダムからモーセまでの間にも、アダムの違犯と同じような罪を犯さなかった人の上にさえ、死は支配しました。実にアダムは、来るべき方を前もって表す者だったのです。

しかし、恵みの賜物は罪とは比較になりません。一人の罪によって多くの人が死ぬことになったとすれば、なおさら、神の恵みと一人の人イエス・キリストの恵みの賜物とは、多くの人に豊かに注がれるのです。この賜物は、罪を犯した一人によってもたらされたようなものではありません。裁きの場合は、一つの罪でも有罪の判決が下されますが、恵みが働くときには、いかに多くの罪があっても、無罪の判決が下されるからです。一人の罪によって、その一人を通して死が支配するようになったとすれば、なおさら、神の恵みと義の賜物とを豊かに受けている人は、一人のイエス・キリストを通して生き、支配するようになるのです。そこで、一人の罪によってすべての人に有罪の判決が下されたように、一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得ることになったのです。一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、一人の従順によって多くの人が正しい者とされるのです。律法が入り込んで来たのは、罪が増し加わるためでありました。しかし、罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました。こうして、罪が死によって支配していたように、恵みも義によって支配しつつ、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に導くのです。

〔序〕宗教改革を生んだ手紙

私たちは、教会学校の分級で、聖書教育の教案に従って聖書を読み進めています。昨年の12月からマタイ福音書を通して、主イエスの生涯を学びました。そして4月23日からローマの信徒への手紙を読み始めました。

この手紙は世界宣教の立役者パウロがローマ帝国の都ローマに生まれた小さな諸教会の信者を励ますために、紀元 55～56 年頃に書き送った手紙です。今から 500 年前にドイツの修道僧マルチン・ルターが、この手紙から学びとった 信仰に基づいて、当時のカトリック教会の教えに疑問を投げかけました。その結果、各地の教会で信仰の革新が生まれ、プロテスタント教会が誕生しました。いわゆる宗教改革です。私たち

も、福音信仰をしっかりと学び直す機会にしたいものです。ルターについては、丁度送られて来たシンガポールの伊藤宣教師の説教をお読みください。またキリスト教迫害の急先鋒だったパウロの回心については、4月23日の第一回目に、丸山主事が説明して下さっています。その説教もお読みください。いずれも会堂後の卓上に置かれています。

[1]罪と死の起源

或る人が「年が進み、死が次第に身近に迫ってきた。そして自分の罪深さを思うにつけ、信仰なしには生きられなくなった。ところが信仰を持たずに平気で生きている人が何と多いことか。不思議だ」「死に対する鈍感さは、自分の罪に対する鈍感さから生まれる」と言っています。

でも罪に対して敏感になれば、心の平安が失われます。そこで私たちの心が、平安を保つために、無意識のうちにも、罪に敏感にならぬように働いているからではないでしょうか。そこで、罪からの救いという恵みを、どのようにして与えられるか、それを知ることが大切になります。

大勢の人々が、無病息災、家内安全、商売繁盛、入学祈願、交通安全等々を、お賽銭を捧げ、お札を買って祈願しています。しかしその神仏の心を聞き取り、自分を反省し、生き方を変えようとする事について、どれほど真剣に考えているのでしょうか。

主イエスは、先ず祈りを教えて下さいました。それが主の祈りです。私たちは事あるごとに、先ず祈りますね。「天にまします我らの父よ、ねがわくは御名をあがめさせたまえ。御国を来たらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。我らに罪をおかす者を、我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。我らをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。国とちからと栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。」

私たちは、この全世界・全宇宙の万物を創造し、御手のうちに支配しておられる神に、「我らの父よ」と祈りを捧げるのです。第一の祈りは「その主なる神を心からほめたたえる」こと、そしてその神が「御心にかなうご支配を、私たちの住むこの世界でもおこなって下さい。私は御心に聞き従います」と祈ります。それから、「今日生きる命の糧をお与え下さい」と、自分の生活について、祈っていくのです。

では私の祈りを聞いて下さる神は、どの様なお方なのでしょう。聖書は「初めに、神は天地を創造された」という言葉で書き始められています(創世記1:1)。闇の中で混と

んとした状態にあった世界に、「光あれ」との言葉をもって、神は天地万物の創造を開始されました。その創造の御業は、きわめて良いものでした。そこで神に似るものとして人間を創り、その管理を委ねられたのでした。では何故その世界が今日のような状態になってしまったのでしょうか。

創世記第2章からは、管理を委ねられた人間に焦点をおいた歴史が、別の資料によって語られていきます。神は土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れて生きる者にして、世界を管理させました。神は彼の分身エバ(命)を造り、二人で仲良く働くようにされました。彼らは 何をしてても全く自由でしたが、ただ一つ、園の中央にある命の木・善悪の知識の木からだけは、「決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう」と、命じられていました。

何をしてても自由だが、「善悪の判断だけは、神に聞き、それに従え」。これが アダムに対する神の唯一の求めでした。ところが彼らは、その木の実を、蛇にそそのかされて食べてしまったのです。そして彼らはエデンの園を失ってしまいました。そうです。人間各自が、善悪を自分勝手の判断で行えば、各自の 判断のくい違いから、衝突が起こるからです。そしてアダムの家庭でも、兄が弟を殺すという殺人事件が発生してしまったのでした。(創世記4:8)

こうして一人の人アダムの神に聞き従わない行動、即ち罪が我が子に伝わり、死をもたらす結果を生みました。そして神に聞き従わない不従順・即ち罪は、人から人へと全ての人に拡がり、死もまた、全ての人に及んでしまいました。

ユダヤ人は、モーセを通して律法を与えられ、神の民として契約を結んで頂いたと自覚しました。そこで律法に違反する行為を罪と理解しました。では律法が与えられなかった時には、罪がなかったことになるのでしょうか。そんなことはありません。律法の有る無しにかかわらず、神に聞き従わない罪は存在し続け、その結果としての死は、アダムに始まって、全ての人を支配してきたのです。

[2]十字架と復活の救い

こうしてパウロは、一人の人アダムから、罪と死が全ての人に及んだ事実を先ず取り上げ、それと対比する形で、キリストの十字架の死という救いの御業が、世界の全ての人に及んでいることを、語り始めました。

罪を全く犯されなかった主イエスが、十字架の上であのように6時間も、死の苦しみを味わい尽くして死んでいかれました。「わが神、わが神、なぜお見捨てになったので

すか」。まさに神に見捨てられる**罪の裁き死**を受けられたのです。罪を全く犯したことの無い主イエスのこの叫びこそ、私たちすべての人間の罪を一身に引き受けて、**神の裁きを受けてくださった死**であることを現わしています。しかし、神の御業はそこで終わっていませんでした。

神は墓に葬られた主イエスを、三日目の朝に**復活**させて、弟子たちに引き合わせられたのです。これは「わが神、わが神」と叫びつつ死んでいかれた**キリストの呼びかけ**、**祈りに対する神の応答**です。主イエスの十字架の死によってもたらされる、**新しい命の祝福**です。このようにして十字架に於いて、**主イエスと天の父なる神**とが一つになって、**罪よりの救いの御業**を、弟子たちにはっきりと現わされたのでした。

主イエスの十字架の死に対して、復活をもって応えてくださった父なる神。これこそ、十字架が見捨てられた死ではなく、**罪の裁きと、新しい命を与える恵み**を伴う、**神の救いの御業**であることを、パウロは見て取ったのです。そして主イエスの**十字架の死**こそ、新しい命に生きる恵みをもたらす**神の救いの御業**であったと、パウロは語ったのでした。

5章15節をご覧ください。「一人の罪によって多くの人が死ぬことになったとすれば、なおさら、神の恵みと一人の人イエス・キリストの恵みの賜物とは、多くの人に豊かに注がれるのです。」

[結]主の祈りを祈りつつ

最後に、17節に注目したいと思います。「一人の罪によって、その一人を通して死が支配するようになったとすれば、なおさら、神の恵みと義の賜物とを豊かに受けている人は、一人のイエス・キリストを通して生き、支配するようになるのです。」

人間の歴史は、**罪と死**に脅かされ続けてきました。しかし私たちと同じ人間になってこの世に誕生し、生きて下さった**主イエス・キリスト**が、あのように**十字架**について死んで下さり、墓より**復活**して下さることによって、死を支配し、恵みと義の賜物を豊かに受けて生きる者へと、私たちを変えて下さる**救い**を備えて下さいました。

主の十字架の時には、**弟子たちは逃げ出して、隠れてしまいました**。死を恐れて、家に閉じこもってしまったのです。しかし復活された主に出会うことによって、**一変してしまった**のです。彼らは、死を恐れず、十字架と復活の救いの恵みを、堂々と証し始めたのでした。そして迫害者**パウロ**までも、変えられてしまったのです。

イエス・キリストを通して神の恵みと義の賜物を豊かに受けて、**死を支配する者**に変えられたのです。「**支配する**」とは王としての力と自由を持つことです。罪の力に対して、死の恐れに対して、信仰の恵みによって**恐れなくなり**、自由に生きていけるように救われたのです。

「**一人のイエス・キリストによって**」これは、罪と死が**一人の人間アダム**から始まり、私たち人間を脅かし続けてきたことに対応して、**神の子キリスト**が、私たちと同じ**一人の人間**となって、この世に来て下さり、その**罪と死の支配**から私たちを救い出して下さった神の恵みを、強調する言葉です。罪と死の支配をもたらした**アダム**と、恵みと義の賜物を豊かにもたらして下さった**イエス・キリスト**とを対比ですね。

私たちの**罪の一切**は、キリストが十字架によって、既に神の裁きを受けて下さったのです。そして主の復活された**新しい命の恵み**も、キリストを救い主と信じて生きるならば、頂けるのです。私たちは**自分の罪と死**について恐れと不安から、解放されて生きていけるのです。

神が備えて下さった**罪と死からの救いの恵み**を、しっかりと心に受けとめ、**主の祈り**を祈りつつ、感謝と喜びをもって、生きて参りましょう。

祈ります：天にまします私たちの父なる神さま。あなたを心からあがめさせてください。あなたのご支配が今日も私たちの上に行われますように、私たちの心を整えて下さい。貴方のみ言葉を絶えず学びつつ、み心に従う歩みをさせてください。あなたの恵みを証する者にしてください。礼拝を守り続けることの出来る健康をお与えください。病む者をお癒し下さいますように。主よ、平和をお与えください。殺し合う戦争を止めさせてください。私たちの救い主 **イエス・キリスト**の御名によって、お祈りします。 **アーメン**

